

都内主要繁華街における 滞留人口モニタリング

東京都医学総合研究所
社会健康医学研究センター
西田 淳志

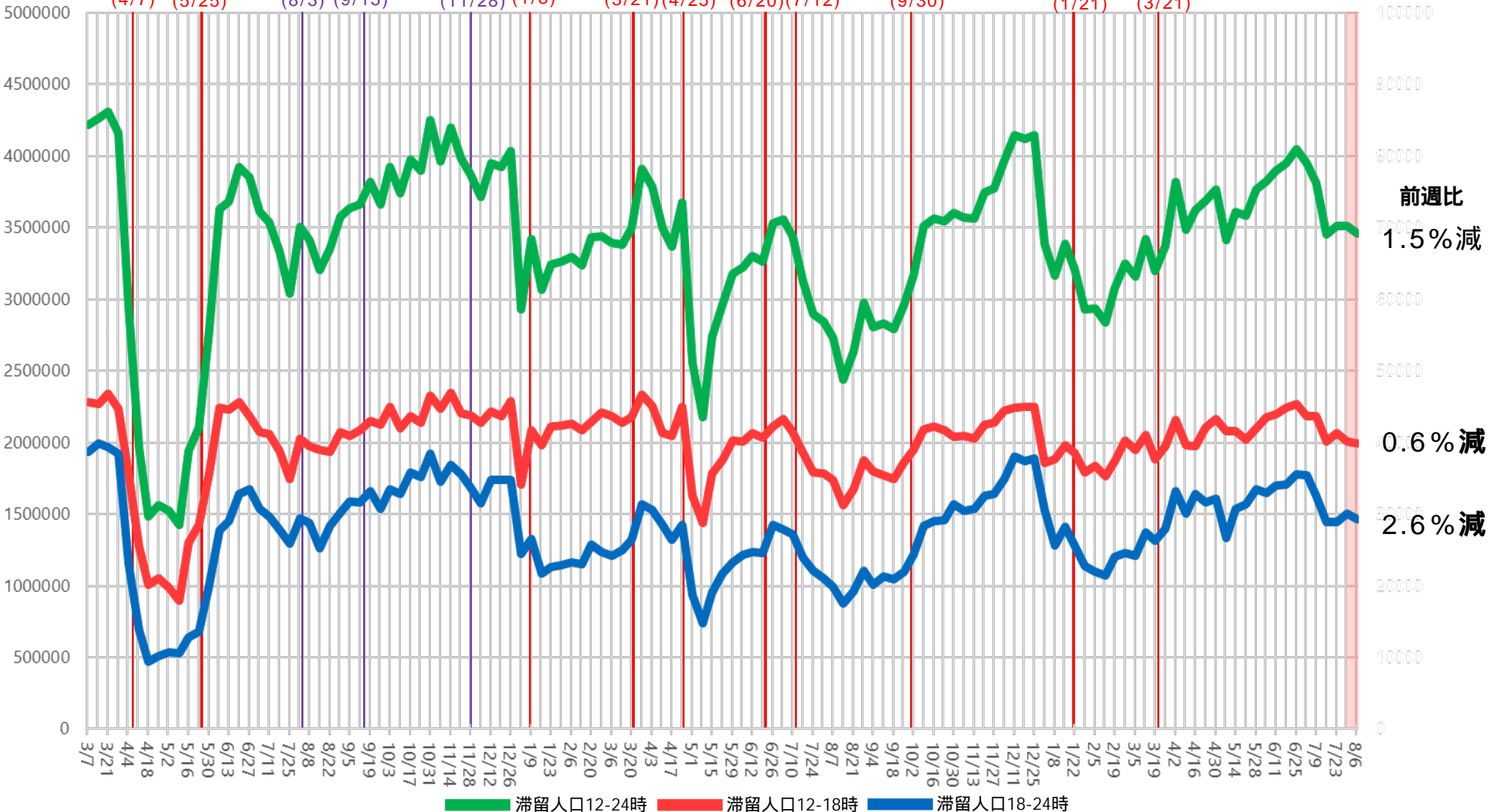
都内主要繁華街 滞留人口モニタリング

< 要点 >

- レジャー目的の夜間滞留人口は、前週から小幅ながら減少（前週比：2.6% 減）。夜間滞留人口に占める中高年層（40～64歳）の割合が若年層よりも高い状況が続いている。
- 依然厳しい感染状況が続く中、お盆前後で人々のハイリスクな行動が急増すると、感染状況がさらに悪化する可能性がある。
- 引き続き、マスクなしでの長時間・大人数の会食などハイリスクな行動をできる限り控えることが重要。

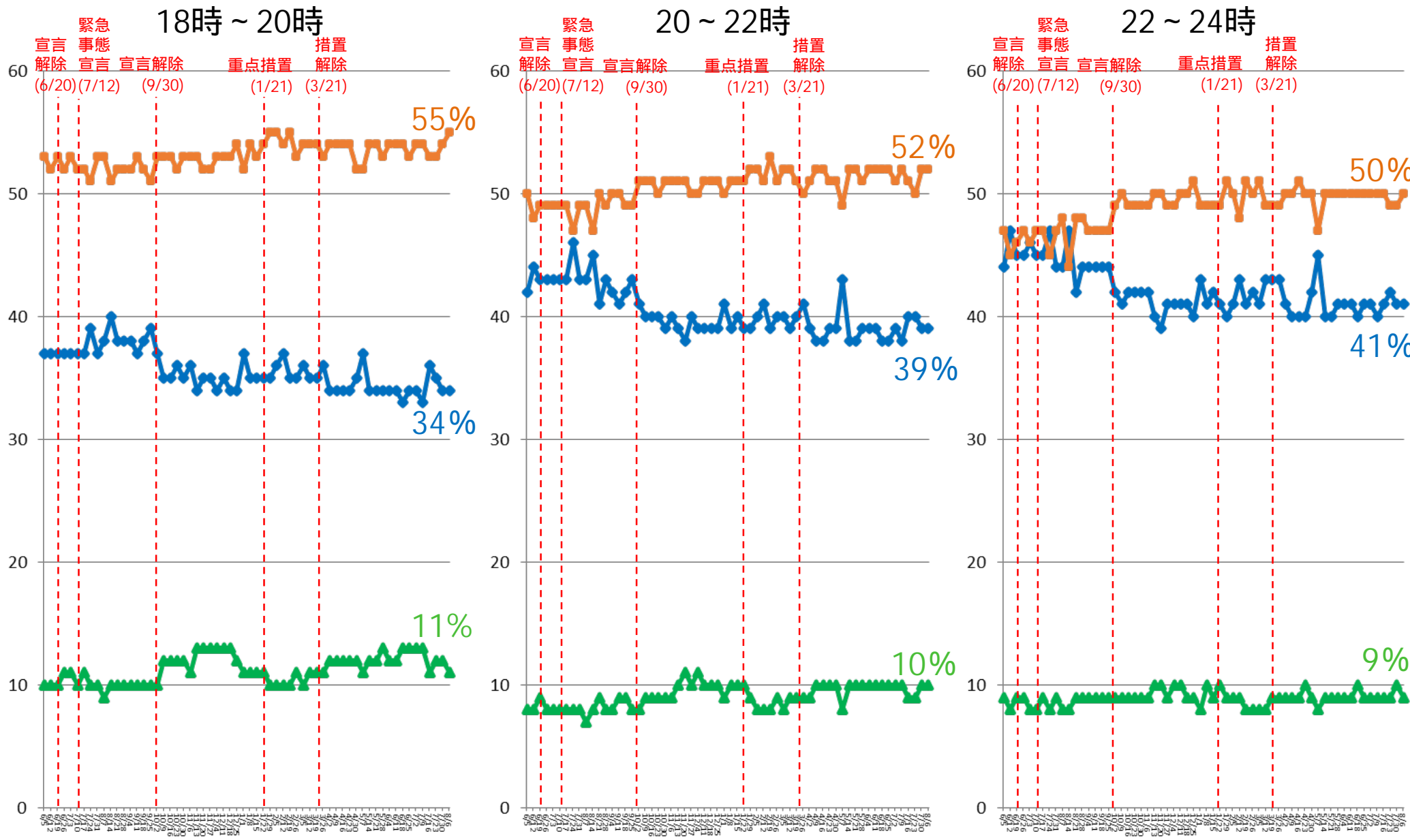
時間帯別主要繁華街滞留人口の推移：東京（2020年3月7日～2022年8月6日）

繁華街
滞留
人口
(人)



※対象繁華街は歌舞伎町・銀座コリドー街・渋谷センター街・上野仲町通り・新宿二丁目・池袋・六本木

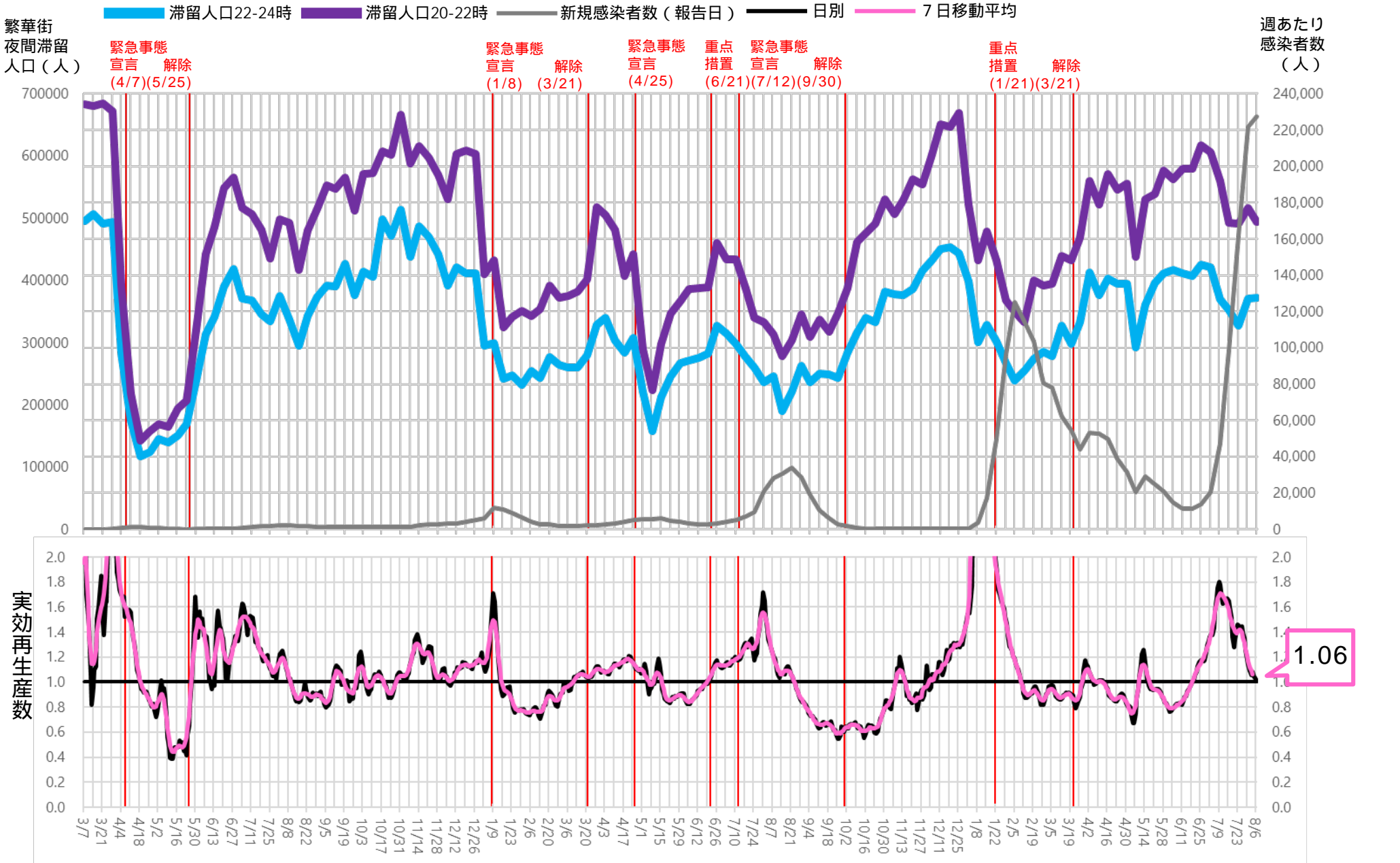
都内主要繁華街における夜間滞留人口の年代別占有率（2021年6月1日～2022年8月6日）



LocationMind xPop © LocationMind Inc.

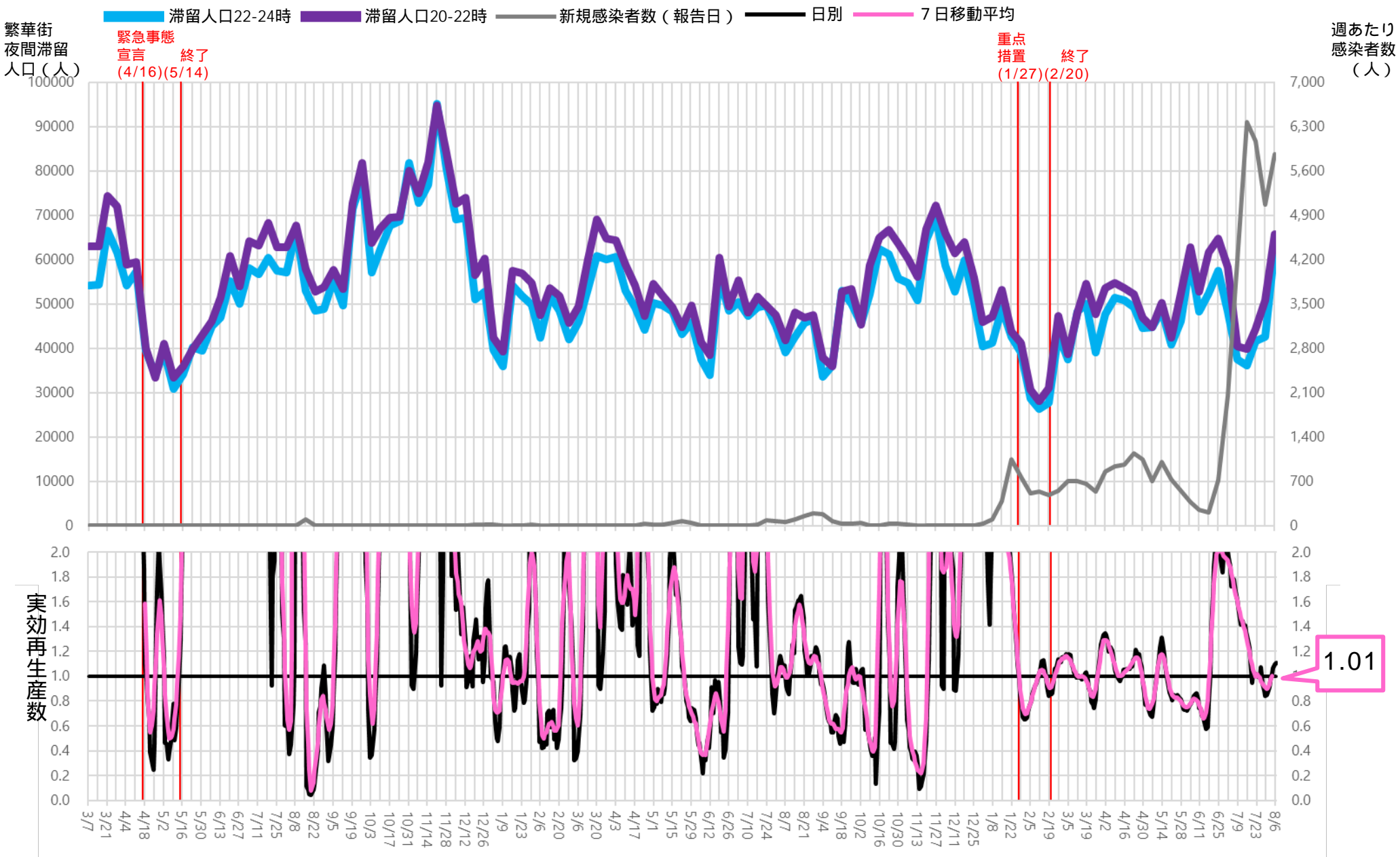
15～39歳 40～64歳 65歳以上

主要繁華街夜間滞留人口の推移と実効再生産数：東京（2020年3月1日～2022年8月6日）



※対象繁華街は歌舞伎町・銀座コリドー街・渋谷センター街・上野仲町通り・新宿二丁目・池袋・六本木

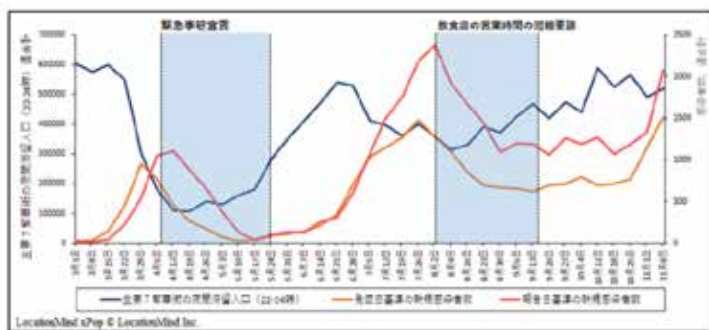
主要繁華街夜間滞留人口の推移と実効再生産数：島根（2020年3月1日～2022年8月6日）



※対象繁華街は益田駅・出雲市駅・代官町・松江駅・伊勢宮町・松江城南・東本町

ハイリスクな滞留人口と感染状況との関連

- GPSの移動パターンから**主要繁華街(ハイリスクな場所)**に**レジャー目的(ハイリスクな目的)**で滞留したデータを抽出
- **夜間帯(ハイリスクな時間帯)**の滞留人口量を1時間単位で推定
- 繁華街夜間滞留人口データとその後の
新規感染者数、実効再生産数との関連が確認されている



GPS移動パターンから職場と自宅の場所を推定した後、職場・自宅以外の15分以上の滞留をレジャー目的としてカウント

LocationMind xPopのデータは、NTTドコモが提供するアプリケーションサービス「ドコモ地図ナビ」のオートGPS機能利用者より、許諾を得た上で送信される携帯電話の位置情報を、NTTドコモが総体的かつ統計的に加工を行ったデータを使用。位置情報は最短5分ごとに測位されるGPSデータ(緯度経度情報)であり、個人を特定する情報は含まれない。

Nakanishi M, Shibasaki R, Yamasaki S, Miyazawa S, Usami S, Nishiura H, Nishida A. On-site Dining in Tokyo During the COVID-19 Pandemic: Time Series Analysis Using Mobile Phone Location Data. *JMIR mHealth and uHealth*, 2021